



ヒメコウゾ (姫楮) 18

【クワ科】 落葉低木～小高木

5月頃に花を咲かせ、秋に熟す実は食べられますが、口当たりは良くありません。葉は長さ4～10センチと大きさに差があり、ゆがんだ卵形で、切れ込みのないものから2～3裂に切れ込みが入るもの(分裂葉という)まで変化があります。「ユネスコ無形文化遺産」に登録された石州半紙の材料に使うコウゾは、このヒメコウゾの仲間です。



トベラ (屏) 17

【トベラ科】 常緑低木～小高木

海岸に多く、5月頃に咲く花は白から黄色に変わっていきます。葉は先端が丸い形で裏に巻くことが多く、葉や枝をちぎると独特の匂いがあります。実は熟すと裂け、中の赤い種子が目立ちます。節分にこの枝を家の扉に付けて「鬼除け」をしたことから、この名がつけました。



ゴンズイ (権草) 18

【ミツバウツギ科】 落葉小高木

葉は複葉で、5月頃に咲く花は黄緑色で小さくあまり目立ちません。枝や葉は、ちぎると独特の匂いがあります。秋には、果皮の赤と、光沢のある黒い種子との対比が美しい実になります。

エゴノキ (野茉莉) 19

【エゴノキ科】 落葉小高木～高木

5月頃、枝から下向きに多くの白い花を咲かせます。種子は野鳥のヤマガラスの好物。果皮はエゴサポニンを含み「エグイ」のが名前の由来です。昔は、実をつぶして石けんの代わりにしたり、川に流して魚をとりました。材は「こけし」の材料に使われる他、炭にしてガラス器や漆器の研磨に使われます。



スイカズラ (吸葛) 20

【スイカズラ科】 時に常緑つる性

5～6月頃に咲く花は、日が経つにつれて白色から黄色に変化するので別名「キンギンカ」ともいい、甘い香りがあります。また、花の奥には蜜が溜まっており、人々がこの花の蜜を吸った様子からこの名がつけました。花や葉は乾燥してお茶として利用します。



ガンピ (雁皮) 21

【ジンチョウゲ科】 落葉低木

5～6月頃に咲く黄色い花の形はジンチョウゲによく似ていて、林の縁にみられます。樹皮は和紙の原料となり、強く光沢のある紙ができます。松江市八雲町の安部栄四郎さんは、この木を材料にした「雁皮紙」の制作で「人間国宝」に指定されました。



ネジキ (根木) 22

【ツツジ科】 落葉低木～小高木

5～6月頃、つぼ形の白い小さな花をたくさん咲かせます。樹皮の裂け目がねじれたように見えるので、この名になりました。冬の枝先が赤く美しいので、花材として使います。アセビと同じく有毒植物です。



ウツギ (空木) 23

【アジサイ科】 落葉低木

5月頃(旧暦4月=卯月)、たくさん白い花が咲きます。卯月に咲くことから卯の花とも呼ばれ、初夏を表す季語として和歌などにもよく登場します。幹が中空であることが名の由来で、材は堅く木釘などに使われ、熊野大社の「火きり杵」にもこの木が使われます。



ヤマボウシ (山法師) 24

【ミズキ科】 落葉高木

5月下旬頃に花が咲きます。白く花びらに見えるのは、総苞片(そうほうへん)といい、花びらではありません。この総苞片と中心の花を、僧侶が頭巾をかぶった様子に見立てて山法師といいました。秋に熟した果実は甘くて食べられます。

センダン (柃檀) 25

【センダン科】 落葉高木

6月頃、うす紫の良い香りの花をたくさんつけます。葉っぱは鳥の羽のような付き方の複葉で、互生します。冬に残る実は良く目立ち、果実や樹皮は生薬として、材は家具・木工品などに利用されます。近年、林業では早く大きく利用できる樹として注目されています。



テイカカズラ (定家葛) 26

【キョウチクトウ科】 常緑つる性

地面を這うつるの葉は小さく、樹をのぼるつるの葉は大きくなる、というように生育環境で葉の形が変わる性質を持ちます。6月頃に咲く花は5弁のねじれた花びらが付き、芳香があります。昔、内親王を愛した歌人藤原定家が、死後も彼女を忘れられず、葛(かずら)となって彼女の墓にからみついたという伝説が名の由来といわれています。



クマノミズキ (熊野水木) 27

【ミズキ科】 落葉高木

6月頃に白色の小さな花を枝の上に一面に咲かせます。秋に黒く熟した実の枝が赤くなり、鳥に実のありかを知らせます。葉は対生します。名は三重県の熊野で発見されたことによります。よく似たミズキは葉が互生で、花はクマノミズキより一月早く咲き始めます。



ネムノキ (合歡木) 28

【マメ科】 落葉高木～小高木

6～7月に、花弁が目立たない花をたくさん集めて咲きます。赤く見えるのは雄しべで、一つの花に雌しべが一つあります。花は芳香があり、葉は複葉で、夜になると小葉が閉じて眠っているように見えます。秋には、豆のような種子が数個入ったサヤをつけます。



クサギ (臭木) 29

【シソ科】 落葉小高木～低木

7月下旬頃からピンクがかった白色で芳香のある花をたくさん付けます。葉っぱを揉むと臭い匂いがあるので、この名になりました。秋には赤い星形のがくと、中の藍色の対比が美しい実になります。



コウヤボウキ (高野箒) 30

【キク科】 落葉小低木

10月頃に咲く花は、その年に伸びた枝の先に付きます。この枝には葉が互生し、2年枝には細長い葉が3～5個ずつ束状につきます。かつて高野山で、この枝を利用して箒(ほうき)を作ったことがこの名の由来と言われています。